

## ■はじめに

校園長の皆さん、こんにちは。1 学期最後の校園長会となりました。1 学期を振り返るとともに、夏休みに向けての準備も、よろしくお願いします。

奈良市では、今年度 I C T\*<sup>1</sup>教育推進のための「奈良市教育 I C T 戦略会議（仮称）」を立ち上げることになりました。その関係で県内で先進的にタブレット端末を導入している奈良女子大学附属中等教育学校に視察に行ってきました。



奈良女子大学附属中等教育学校にて

奈良女子大学附属中等教育学校ではタブレット端末を約 6 0 台導入し、国語や理科、総合的な学習の時間などで活用されています。生徒がグループを作り、その中心にタブレット端末を置いて、話し合うというスタイルで授業が進められていました。副校長の吉田信也先生は、「タブレット端末では、繰り返し学習で利用することが簡単な活用方法であるが、協働学習にいかん活用するか、授業の中でどのように I C T 機器を使いこなすかが大切になってくる。まさに教員の意識と力量が問題となってくる。」とおっしゃっていました。

## ■今まさに我が国に求められているもの

### 【第 2 期教育振興基本計画】

6 月 14 日に第 2 期教育振興基本計画が閣議決定されました。その「前文」には、これからの国の教育に対する方針が表れています。

基本計画では、

- 危機を乗り越え、持続可能な社会を実現するための一律の正解は存在しない。
- それぞれの現場で行動することが求められ、何もしないことが最大のリスクである。
- 経済成長のみを追求するのではない、成熟社会に適合した新たな社会モデルを構築していくことが求められている。

と指摘し、教育こそが、我が国が直面する危機を回避させるものであると述べられています。

私もこの 3 つがこれからの教育を考えていくキーワードだと考えます。

### 【一律の正解がない時代に】

みんなが同じことをして生産性を上げていくことにより成長した高度経済成長の時代を背景に、これまでの教育は、一律の正解を求めて、一斉授業というスタイルで進められてきました。しかし、現在は、これまでの方法で成長していくことが困難ないわゆる成熟社会です。

先日、奈良市の職員養成塾があり、東京都初の民間人校長として杉並区立和田中学校の校長を務められた藤



奈良市職員養成塾で講演する藤原和博氏

原和博さんにお越しいただきご講演いただきました。その中で、参加者が次のような課題について意見交換をしながら、「成熟社会」について考えるワークショップがありました。

奈良市職員養成塾ワークショップ（平成 25 年 7 月 1 日実施）

「奈良市で、阪神・淡路大震災や東日本大震災のような大規模災害が起こったとしましょう。あなたは避難所の責任者です。あなたの避難所には 800 人が収容されていますが、震災から 1 カ月ほどたった時、ある青年が、700 個のロールケーキを運び込んできました。あなたならどう対処しますか。」

一律の正解を求めてきた私たちは、数が合わないことにとらわれて、断るという選択をしてしまうかもしれません。しかし、支援する人の心が届き、避難所の方々が喜んでもらえるような方法として、他の選択肢はいくつも考えられるはずで、柔軟な発想をもち、一人一人が納得する答えを状況に応じて探っていくことが、これからの「成熟社会」を生きていく上で重要となってくると思います。

そういう意味において、先程紹介しました奈良女子大附属中等教育学校では、一律の答えに生徒を導くのではなく、タブレット端末を教具として使いながら、子どもたちが自分たちで考え、自分たちで答えを出し、その情報を交換し合うという協働的な学習を進めていました。次の時代を担う子どもたちを育成する上で、どのような授業を展開するのか、今改めて問われていると感じました。

### ■準備と意識改革

文部科学省が「平成 23 年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の結果を発表しています。都道府県別の集計ですから、奈良市は掲載されていませんが、目安として奈良県の結果を見ますと、「授業中に ICT を活用して指導する能力」に関する項目の順位が全国でも大変低い位置にあります。奈良市においても同様の傾向があるのではないかと推測します。様々な理由が考えられますが、「ICT 機器を活用しなくても、十分同じだけの教育効果があげられる。」「苦勞して ICT 機器の活用をする必要がない。」とい

授業中に ICT を活用して指導する能力

- 1 位 愛媛県…83.6%
- 2 位 三重県…82.4%
- 3 位 岡山県…82.3%
- (中略)
- 45 位 島根県…57.5%
- 46 位 奈良県…57.0%
- 47 位 山形県…56.6%

「平成 23 年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」より（一部抜粋）

った意識を教員が持っているとするれば、昨今の世の中の変化、ICT 機器の進化を考えると、「何もしないリスク」を背負うことになるのではないのでしょうか。様々な ICT 機器を使うことが目新しく、スキルを身に付けさせることを目的としていた時代から、今や ICT 機器を教具として使いこなし、「ICT 機器を使って何を身に付けさせるのか」という視点をもち、より質の高い授業を展開していくことが求められているのです。子どもたちがタブレット端末を囲んで情報をシェアし、議論して考えを深め、発信していく、そ



ICT 機器を活用した授業風景（奈良市立小学校）

のような授業がすでに行われていることを奈良市の教員は認識し、準備していかなければならないと思います。

#### ■終わりに

先程、「何もしないことが最大のリスク」であるという第2期教育振興基本計画のなかの言葉を紹介しましたが、変化に対応できなかつたり、準備を怠っていたりしては、成熟社会が求める子どもたちの姿を描くことはできません。今後の変化に奈良市の教員が対応しきれぬのか、まさにその準備と意識改革が今、求められているのだらうと思います。世の中の変化や新しい技術に対して、柔軟な発想と先を見据える目をもち、教育改革に取り組んでほしいと思います。

\*<sup>1</sup>情報・通信に関連する技術一般の総称。従来、用いられてきた「IT」とほぼ同様の意味で用いられるもので、「IT」に替わる表現として日本でも定着しつつある。